

がん化学療法科 ニュースレター

ほほえみ 第137号



雪も融けて、桜の開花を待つ季節となりました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。個人的には、花粉症の季節なのですが、マスク生活が長くなってからは、症状が弱まっているように思います。先月は、ウクライナ侵攻について書いておりましたが、残念ながら、ウクライナ情勢に関しては、よい兆しがあるとは言えない状況です。膠着状態とも思われますが、多数の人命にも関わることであり、まず停戦を行ってから、外交交渉に移って欲しいと願っております。

新渡戸稲造記念 がん哲学外来

がん哲学外来という言葉が聞かれた方は、多くはないかと思います。この活動は、2008年に、当時、順天堂大学教授であった、樋野興夫先生が始められたものです。当初から、がん哲学外来は、新たなムーヴメントとしてマスコミに取り上げていましたが、私に関わったのは2011年のことでした。新渡戸稲造記念、がん哲学外来が出来たのもこの年です。

当時、文部科学省が、「がんプロフェッショナル養成プラン」を推進しておりましたが、2011年に北東北がんプロフェッショナル養成プランの進捗状況に関して外部評価を行うこととなり、北東北在住の臨床専門医も一人外部評価委員に入った方が良いということで、なぜか私が指名されておりました。その際に、樋野興夫先生も外部評価委員の一人でした。樋野先生は家族性腫瘍や、アスベスト発がんの権威なのでお名前は存じ上げておりましたが、直接お話しするのは、その時が初めてでした。外部評価委員は、シンポジウムの講演も行うのですが、講演後の周囲の方々の反応は、樋野先生と私の講演の波長が不思議に合っているということでした。そんなご縁で、岩手県でもがん哲学外来の活動を推進できればということとなり、約二か月後に、当院で、がん哲学外来を行っていただきました。その際、樋野先生が命名されたのが、新渡戸稲造記念という名前です。

2011年の末に、がん哲学外来市民学会が設立されたのですが、その際に私が設立発起人となる一方、世話人、監事もお引き受けすることとなりました。がん哲学外来の草創期でしたので、制度の整備など大変ではありましたが、大きな課題は、「がん哲学外来」の実態が第三者にわかりにくいということでした。そこで、勇美記念財団様から研究助成をいただいて、内容を紹介するためのパンフレットを作成致しました。「がん哲学外来 メディカル・カフェの手引き」というもので、現在もインターネットでダウンロードされ、使われています。樋野先生から、私が、がん哲学外来を行って良いというお許しはいただいていたのですが、イベントの時以外には行うことはなく経過しておりましたし、がん哲学外来市民学会の役職のほうも、諸先輩に変わっていただいております。

私自身、樋野先生が、がん哲学外来を始められた当時の年齢となり、医療意思決定の研究も行ったことで、がん哲学外来を気負わずに行える気持ちになったということで、試みとして月に2回程度、「新渡戸稲造記念 がん哲学外来」を行ってみることに致します。がん哲学外来の二つの要点は、暇気な風貌、偉大なるお節介ということですが、樋野先生自身、冗談のようなものとも言われていますので、あまり哲学という言葉に惑わされずに、お越しいただければと思います。



樋野興夫先生



診療応援の先生方の外来担当日が増えます

昨年度は、毎週火曜日、木曜日に診療応援に来ていただいておりますが、今年度からは、さらに月曜日にも診療応援に来ていただくこととなりました。フレッシュなスタッフを加えて診療させていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

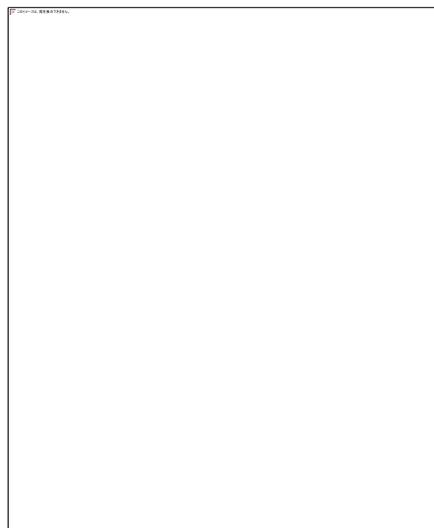
木曜日を担当されていた谷口桜先生は、異動となりました。谷口先生には、当院で初期研修をされていた時から、長きにわたって当科で診療を行っていただきました。深く感謝申し上げますとともに、新任地でも、益々、ご活躍されることを祈念しております。



クロッカスが咲きました

毎年、最初に咲くのはクロッカスです。今年も、忘れずに咲いてくれました。しばらくクロッカスの花を見ていると、ミツバチが蜜を集めており、それも一匹ではなく3-5匹ぐらい飛びかっています。コロコロした可愛いミツバチです。春先のクロッカスの開花にいち早く気づいたのは、ミツバチということになります。

日向の方が蜜が出ているようで、同じように開花していても、ミツバチがとまっているのは日向の場所のクロッカスだけです。



MEMO 4月のがん化学療法科の予定

診療応援の先生方

月曜日	齋藤里佳先生
第1, 3, 5火曜日	佐々木啓寿先生
第2, 4火曜日	工藤千枝子先生
第1, 3, 5木曜日	笠原佑記先生
第2, 4木曜日	今井源先生

4月29日 昭和の日

